





ピーターとマリア

花とゆめCOMICS

ピーターとマリア

1993年7月25日 第1刷発行

著書 山下友美

発行所 株式会社白泉社

収録作品メモ

ピーターとマリア 平成4年 花とゆめ22号～24号掲載

乙女の国のアリス 平成5年 花とゆめ3号掲載

アクアリウム 平成4年 PLANET増刊11月1日号掲載

収録メモ3行目は、別作品の読みきりです。

感想と理由

いまよりほんの100年前、場所はおそらく英国。
大学内の離れの研究室に一人でもる変わり者の学者の下に、
かつての恩師から助手として預けられた一人の女性。

この時代の女性といえば・・・
長い髪に長いドレスで飾り立て
控えめにたおやかでつつましく従順に
日々は家事に勤しみ子供を育て
家庭を守る慈愛に満ちた存在

一方、いくつもの研究室をたらいまわしにされた、かの女性は、
男性のように短い髪で、男性だらけの大学を闊歩し、
青大将を素手でつかまえ、にっこり笑う・・・

彼女の心意気と意志の強さは、
「君は女性じゃないか」という一言で閉ざされてきた。
そんな彼女と、真理を探究する学者との物語。
なにかに対する意欲に、男性も女性もないのだ。
そして、周囲と違うことがどれほど心細いのか、
貫くことが、どれほど険しい道なのか。

「
この世界に 同じ人間なんていないし
それをはかる ものさしもないよ
様々な人間 様々な生き物が 在るから
この世界は すばらしいんだ
わかるね？

」
P103より

いつか読む君は、なにを考えて、なにを得るだろうか。